

Serum chromogranin A is a useful marker for Japanese patients with pancreatic neuroendocrine tumors

肱岡, 真之

<https://doi.org/10.15017/1500564>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済



(別紙様式2)

氏名	肱岡 真之				
論文名	Serum chromogranin A is a useful marker for Japanese patients with pancreatic neuroendocrine tumors				
論文調査委員	主査	九州大学	教授	田中	雅夫
	副査	九州大学	教授	中西	洋一
	副査	九州大学	教授	小田	義直

論文審査の結果の要旨

膵神経内分泌腫瘍 (pNET) は神経内分泌細胞系から発生する比較的稀な腫瘍で近年世界中で増加傾向にあり、膵癌と比較すると緩徐な経過をとるが悪性例は多く生命予後はなかなか改善されていない。クロモグラニン A (CGA) は海外では pNET の有用なマーカーとして使われているが、本邦ではこれまで検討されておらず実態が不明である。本研究では、pNET を含む様々な膵疾患患者および健常者の血清を用いて ELISA キットによって CGA 値を測定した。疾患の内訳は pNET 69 例、膵癌 50 例、慢性膵炎 50 例、自己免疫性膵炎 20 例および健常者 112 例である。各群での CGA 値をみると、pNET 群では他の群と比較して有意に血清 CGA 値が高値であった。プロトンポンプ阻害剤 (PPI) を内服していない患者に限定すると、膵癌および慢性膵炎群では健常者群と比較して有意な違いが認められなかった。判別分析の結果、pNET と健常者を判別する最適の cut-off 値は 78.7 ng/ml であり、その際の感度は 53.6%、特異度は 78.6%であった。pNET 群において、この cut-off 値を超過するのに寄与する因子を検討したところ、単変量解析では腫瘍の種類、腫瘍のサイズ、肝転移が、多変量解析では肝転移に加え PPI 内服が有意な因子であることが判明した。本研究によって CGA が本邦においても pNET の診断に有用なマーカーであることが明らかになり、他の膵疾患との鑑別にも有用であることがわかった。海外におけると同様に、本邦においても CGA 測定が pNET 患者の診療に有用な手段となることが期待される。

以上の成績は、この方面の研究において意義ある成果と考えられる。本論文についての試験は、目的・方法・研究結果・意義などの概要について説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文の内容と関連した事項について種々の質問を行い、ほぼ満足すべき回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。